

令和7年度第4回臨時理事会議事録

公益財団法人東京都スポーツ文化事業団

- 1 日 時 令和7年9月9日（火曜日）
16時00分から16時40分まで
- 2 場 所 事務局共用会議室
- 3 理事現在数 7名
- 4 定 足 数 4名（理事の過半数の出席をもって成立）
- 5 出 席 者 7名（理事以外を含む）
理 事 6名
（理事長）塩見清仁
（常務理事）小室明子
（理事）延與桂、上代圭子、中川冷子、平野裕一
監 事 1名
中山正雄
- 6 議 題
（1）審議事項
第1号議案 2025年デフリンピック大会における関係施設間輸送等業務委託
（令和7年度：実施業務その1（単価契約））の締結について
第2号議案 2025年デフリンピック大会における関係施設間輸送等業務委託
（令和7年度：実施業務その2（概算契約））の締結について

(2) 報告事項

収支の見通しについて

委託契約の状況について

協賛契約の状況について

メディアの登録状況について

7 議事に至るまでの経過

出席予定者が全員揃ったため、理事会を開会した。議事に入るまで、河野事務局長が進行役を務めた。冒頭、当理事会は東京都スポーツ文化事業団理事会会議規程第7条に定める定足数を満たし、有効に成立する旨を報告し、定款第32条に基づき理事長が議長を務める旨を説明した。

これを受け、塩見理事長が議長として、開会を宣言した。定款第34条により、議事録署名人は出席した理事長及び監事が務めることを確認し、議事を開始した。

8 議事の経過及び結果

第1号議案 2025年デフリンピック大会における関係施設間輸送等業務委託
(令和7年度：実施業務その1(単価契約))の締結について

第2号議案 2025年デフリンピック大会における関係施設間輸送等業務委託
(令和7年度：実施業務その2(概算契約))の締結について

(1) 議案説明

第1号議案及び第2号議案については、関連する内容であることから、議長が事務局に対して一括して説明するよう指示し、板倉シニアマネージャーが説明を行った。

(2) 質疑及び意見

説明終了後、議長から質疑及び意見を求めたところ、以下の発言があった。

(質問) 延與理事

現場人件費が単価契約であることについて、ご説明いただきたい。

(回答) 板倉シニアマネージャー

役職に応じて単価を定めている。人の配置を検討している段階であるが、今後、受託業者が提示した配置を確認し、執行する。

(3) 決議

第1号議案について諮ったところ、「異議なし」との声があり、全出席者一致で本議案については可決した。

続けて第2号議案について諮ったところ、「異議なし」との声があり、全出席者一致で本議案については可決した。

9 報告事項

(1) 収支の見通しについて

本件について、板倉シニアマネージャーより報告した。

(2) 委託契約の状況について

本件について、板倉シニアマネージャーより報告した。

(3) 協賛契約の状況について

本件について、板倉シニアマネージャーより報告した。

(4) メディアの登録状況について

本件について、板倉シニアマネージャーより報告した。

説明終了後、議長から質疑及び意見を求めたところ、以下の発言があった。

(質問) 延興理事

収支について伺いたい。多数の協賛企業が集まったが、協賛額は10億円程度になるか。当初予算から差額が出た場合、残ったお金はどういった扱いになるか。

また、今回参加いただいた協賛企業を、今後もデフスポーツに関わっていただくために考えていることがあれば教えてほしい。

最後に、過去大会に比べ、報道機関が多いと感じるがその辺りどのように受け止めているか。

(回答) 板倉シニアマネージャー

協賛については、少額での申し込みを可能としたことで平均単価が低くなっているが、多くの企業等にご参画いただいたことで10億円まで積みあがる予定。

当初予算との差額については都からの補助が減額となる。

経費を精査する中では、単に切り詰めるのではなく、例えば広報関係では、多くのメディアから申し込みがあったことを踏まえ、追加で委託契約を発注し専門業者に運営に入ってもらうなど、メリハリをつけている。

また、協賛については、こうした企業等の支援を今後につなげていくことが重要な課題と認識しており、まずは協賛特典等を通じ大会に参画していただきデフスポーツの魅力を感じてもらうことに加え、大会後には交流会で支援スキームの情報提供等を行うなどレガシーとしてつなげていきたい。

広報については、想定以上のメディアから関心をいただいております、しっかりと対応していきたい。

(意見) 上代理事

今回の協賛企業は、理念協賛型かと思う。障がい者の方の社会での活躍等が企業の方でもアピールできる仕組みを作ると、継続して取り入れてくださるのでは。

(回答) 板倉シニアマネージャー

共生社会づくり等を経営理念として掲げている企業がそれを実践する場として活用したいという事例が多い。また、デフアスリートを雇用している企業が社として応援の姿勢を示すため参画している例もある。そうした企業同士の交流会を実施し大変喜んでいただいております、取組として広がりがある。

10 その他

議長より意見を求めたところ、特段の発言は無かった。

以上をもって理事会の議事を全て終了したため、議長が終了を宣言し、散会した。